

しんあい

季刊

2002年(平成14年) 7月20日発行 第48号 ◆編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人 多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10
TEL 042-366-0080

特別養護老人ホーム 信愛泉苑
高齢者在宅サービスセンター 泉苑ケアセンター
養護老人ホーム 信愛寮
小規模特別養護老人ホーム 信愛緑苑
府中市立特別養護老人ホーム あさひ苑
府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター
子ども家庭支援センター しらとり
母子生活支援施設 白鳥寮
母子生活支援施設 東京都網代ホームきずな
母子生活支援施設 中野区さつき寮

多摩同胞会が産声をあげたのは、1946年(昭和21年)でした。それから50有余年、理事長は道なき道を切り開き、時には行政と闘い、時には世間の冷たい目に絶えながら、母子をお年寄りを守り続けました。



何か難儀なことにはぶつかった時、
「成らないのは私がしないからなんだ」と思
うんです。私の生涯は、この言葉に支えられ
たと思います。
(法人五十年史より)

介護に関するご相談は無料ダイヤルで!

- 泉苑在宅介護支援センター
☎ 0120-6540-24
老後支援24時間
- あさひ苑在宅介護支援センター
☎ 0120-2942-24
福祉にっこり24時間

特集

- 中城理事長を偲ぶ
- 施設だより
～ピカピカの●▲■～

多摩同胞会のホームページを開設いたしました。 <http://www.tama-dhk.or.jp/> をご覧下さい

「せねばならぬ」ことをまますやる

私の中に理事長は生きています。(職員)

中城理事長の生き方から学ぶ

去る四月二十九日 当法人中城イマ理事長はとも静かにそして安らかに、自然に帰るように逝かれました。五月十七日に法人主催の「中城イマ理事長とお別れする会」が行われ、多くの皆様が別れを惜しみありし日を偲んで下さいました。追悼集を作成する目的で、皆様にメッセージをお願いいたしました。今回そのメッセージの一部から数行を抜粋して紹介させていただきます。中城理事長の生涯を通して、「福祉ってなんだろう」「社会福祉法人の姿勢ってなんだろう」と読者の皆様とともに改めて考えてみたいと企画しました。

(尚、追悼文集は一周忌を目処に発行を予定しています。)



来る時が来た、巨星落つという想いです。ご苦労の多い人生でいらしゃったのだらうと存じますが、その分、多くの人々に幸せを与えてくださいました。私にとっではいつも道標でした。真似ることは不可能ですが、中城先生の人の生き方を心していきます。(大学教授)

戦後地下道で行き倒れの人たちを助け出したり、亡くなった母親の腕の中で、赤ちゃんがかるうじて息をしていたのを保護なさったり、母子寮の食糧集めに苦労なさったお話をうかがい胸を打たれました。身をもって多くの人々を助けてこられた先生の偉業に深く感謝します。(民生・児童委員)

戦争の激しい傷跡で、己の生活で余裕のないときに、社会奉仕扶助に献身された正義感に強く心に打たれました。また生涯現役を買われ先進諸国の中でも遅れている社会福祉向上に行政施策に多大な刺激を与えていただきお礼申し上げます。(ボランティア)

光のあたらない底辺の人たちに、戦後の混乱期自らの生活が大変な時代に、身を挺して多くの愛と力を与えてくださった人間愛に頭が下がります。(利用者家族)

戦中戦後の激動期から今日まで、いつも笑顔と固い信念をお持ちで、社会的に弱い方に目を向けられ常に奉仕なさっていた姿が今も目に浮かびます。(元特養施設長)

思い起こせば常にご利用者の気持ち、働く人たち

20年近くのボランティアを通して多くの勉強をさせていただきました。理事長の理念が職員の方を通して伝わってきます。今でも自分の未熟さに毎回後悔するばかりですが、ここにかがってなかつたら、自分を見つめる機会はもっと少なかったと思います。(ボランティア)

父が大変お世話になりました。来世で父がお詫び申し上げると思います。父に代わりまして、長くデイホームのお手伝いをさせていたきたいと思っています。(ボランティア)

いつもニコニコされ、両手で握手、そして抱擁。多くのご苦労があったはずなのにそれは少しも見せず、温顔・慈顔に変えられた。只々尊敬申し上げるばかりです。(東京都OB)

いつの会にも理事長としてこやかに挨拶され、委員一人一人に辞を低くして労をねぎらわれ、こちらが恐縮するほどでした。お目にかかることが私にとって生きる目標となっておりました。突然のお知らせにしばらくは言葉も出ませんでした。(評議員、民生委員)

ご献体との由、最後まで医学生のお役に立たれる先生のお気持ち、何より尊く、すべての生きざまをご教示頂きたいです。(匿名)

約半世紀の間、府中刑務所の篤志面接委員として活動いただきありがとうございます。この間、先生の熱意あふれるご指導のおかげで更正した受刑者は多数に上ります。長い間のご指導、当所へのご支援ご協力に対し心からお礼申し上げます。(府中刑務所)



への心を大事に指導されておられました。施設として大事なものを、生きることに大事なことを「真心」ということをいつもいつも唱えておられました。(取引先)

私心なく府中の隣の市に特養やデイサービスなど高齢者福祉の拠点施設が創設されることをわが法人の身内の施設が出来ることのように喜んで頂き、ついには幹部職員を分けていただくまでになった。(元特養施設長)

やさしいまなざし、意を強くされたとき或いは自分の意に合わないときに結ぶ口の形。中城さんは、やささと意志の強さの両方をそなえられたそしてどうしてか分からないのですが、底知れない大きな力を持った方でした。(東社協職員)

トイレに落ちてしまった子どもを助け出し、理事長は「水で洗ってー」と叫び、その場で口といわず、鼻といわず、詰まっていた汚物を自分の口で吸い取って出しはじめたのでした。みんなが理事長を深く尊敬しているのは、理事長の人間愛を一つ一つ肌で感じとっているからです。(元職員)

白鳥寮に一年半ほどお世話になりました。女性でも強く生きられることを学びました。女性とか男性とか関係なく白鳥寮にて学んだことを大切にしたいと思っています。(元利用者)

まだ女性の社会的地位がまったく認められていなかった時代から、強い信念を買き通して98歳まで現役で活動されたお姿は私たちの誇りです。(姪)

ほんの少しでもその生き方から学び、悔いのない人生を送りたいと思います。(府中市議会議員)

介護保険制度の時代となり先生のように全身で福祉に突進することが制限された感すら抱かせる風潮で誠に残念な思いがします。福祉をする前にお金の計算をする風潮は悲しいです。(元特養施設長)

福祉の課題を目前にしたらすぐ手をさし伸ばされた中城さんのパッションに学んでいきたいと願っております。(特養施設長)

百歳の記念碑となるべき千代田区の施設を見ることなく逝かれ残念です。新しくできる施設にも中城イズムの満ちあふれる運営が展開されることを期待し地域の一員として見守ってまいります。(千代田区民)

皆様からお寄せいただいたお別れのメッセージ感動して読ませていただいています。「いい仕事をなさった女の顔、こんな美人だったかしら…」とのメッセージもありました。よかったですね。(坂本 巖(新理事長))



衣料品の名札付けの時、「今の若い人は針を持つことも出来ない。教育だと思って名札付けを少し残しておいてほしい。」とおっしゃった理事長の若い人に対する慈愛あふれる言葉はその季節が来るたびに思い出します。(利用者家族)

子ども虐待に関する活動を続けています。理事長のようにはいかないまでも、私も何か子どもたちの力になれる存在でありたいと思っています。(元職員)



私は事務員として多摩同胞会に勤め始めたので、他部署の人より理事長は身近なところいらつしやいました。未熟な私はよく叱られました。今思い返しても本気で職員を育てる努力を惜しまない人でした。(元職員)

理事長から仮採用辞令・本採用辞令をいただいた時、「やめたかったらいつでもやめなさい。だからだと居座られては迷惑です。」と言われ驚きました。それが理事長の理事長なりの暖かい励ましなのだと気がついたのはここ1年のことです。心から尊敬出来る方のもので仕事をすることができ本当に光栄でした。(職員)

施設を利用する家族の私どもに、安心して物事を相談できる窓口を開放されるなど、寮母さんらのその暖かい雰囲気・施設作りには力を注がれた在りし日のお姿が目につかびます。(利用者家族)



理事長との別れ



坂本 巖

みどりの日の朝、小さな寝室にさわやかな気を入れてもうひと憩いと網戸のまま……。それが天国への旅立ちでした。
花びらにうもれた柩には、白い帷子。白い袴。そして白い足袋。身を清め、旅装をととのえて、理事長は微笑んで見えた。それが私にはとても悲しく胸に迫った。
ルミエール府中でのお別れ式には、十二年前、名誉都民の栄をいただいたたよるこびの笑顔が白い菊花の中に飾れた。

多くのご来式の皆様がたからお心あついお言葉やおひとりおひとりのご献花をいただき、嬉し涙ありがたい感謝の涙にひたりながら、九十八歳の天寿をつとめて「足りるおもいで旅立って行ったと思います。」
私には、とても、荘厳な夕やけの中に身をおく思いでした。「海の夕日は美しいが、海の夕日に似た人生の末路は、更に美しいではないか。」高山樗牛のことばを思い出しました。あんなに多勢の方々にお送りいただけ、理事長は感涙して天に舞い上ったことでしょう。

理事長は、まさにルミエール。ひかり。ともしび。日光。文化。才能。さながら法人の太陽でもあった。

私たちは、この理事長の意志を継承して、その高い指標に向ってそれぞれの力を結集していきたい。

法人には、施設内に、鈴木常務理事、相羽理事に次ぐすぐれた管理職が構えている。何よりも大切な第一線職員皆さんの総力もある。理事長の意志を確実に継承できると思う。絶えざる愛情やさしさで利用者を介護する。地域の皆さんのご協力への感謝。そして皆さんの信託のもとよりよい仕事に専念しよう。

職員のおひとりひとり。星に向って理想を求め、それぞれのワーゴンを駆けて行こう。警告と微笑をたたえて夜ごと輝くエマーソンの星のように、必ずや理事長は、私たちを見守って呉れるにちがいない。
「誓いして、いざゆかんかな。」

(新理事長)

悲しみを越えて

鈴木 恂子

二〇〇二年四月二十九日朝九時十五分を少し回った時、福岡さんから電話がありました。休日のことだったので何かあったのかと、とっさに「どうしたの」と聞くと、「驚かないで下さい」という返事。それから二カ月がたちました。公私共に大きな喪失感の中で過ごした日々でした。母親を失ったことと理事長を失ったこと、そして仕事への大きな責任が残ったことを今やっとなし冷静に受け止めつつあります。

幸い新理事長には中城理事長を当初より内側から支え続けた実弟でもある坂本副理事長が就任されました。新理事長の元で中城理事長の遺志を継承し、更に新しい時代の要請に応じて社会福祉法人としての役割を果たしていきたいと思えます。

中城は葬儀についてかねがね通夜には歌でも歌って明るく送ってほしい、お香典等は頂かぬように、花一本供えてくれれば充分、と申しおりました。
東京福祉会の山下理事長にお願ひして、葬儀からお別れの会に至るまで、できる限り本人の思いに沿ってすすめていただきました。お別れの会の実行委員長には東京医大の名誉教授で、法人の理事でもある内野先生にお引き受けいただき、管理職が中心になり準備をすめました。

訃報が流れてからすぐにとんで来てくださった方、次々に寄せられる弔電やお手紙やお電話。そして五月十七日のお別れ会には府中市役所のご支援、ご助言を頂き、会場となったルミエール府中の方々のご協力、東京福祉会の皆様のお熱心なお仕事ぶりに支えられました。当日は心配していた天候も何とか持ちこたえて六百名を越す多くの皆様にご参会いただきました。

皆様からいただいた惜別のお言葉や暖かい励ましのお言葉に改めて中城の九十八年間の生涯に思いを深くいたしました。多くの皆様に支えられて、今日まで歩んできたことを中城に替って、心より厚くお礼申し上げます。

法人の大きな柱でもあった中城理事長はいなくなってしまうましたが、中城が残した信念はひとりひとりの職員に根付いているように思われます。職員のだれもが利用者への共感をもち仕事をしています。

「利用者に深い共感をもつ」、中城の日頃の言葉におきかえると「深い愛情をもって接しなさい」。「愛」ではない「愛情」というところが中城らしいと思います。大きな愛、広い愛ではなく、私とあなたの思い、やむにやまれぬ「情」。これがそが今日の仕事へ中城を導いた原動力ではなかったのかと。だから、みてみぬふりはできない。やらねばならぬ。なせばなる。小柄な体を奮いたたせてきたのではないかと思えます。

もう、そういう時代ではないのかも知れませんが、中城がたてたこの指とまれにとまってきた多くの職員は時代をこえて、人間としてのぬくもりにこだわっているように思います。中城亡き後も法人の魂として引き継ぎ、皆様に信頼される仕事をしてまいりたいと思えます。今後とも変わらぬご指導ご支援を心からお願ひ申し上げます。

理事長の深い慈愛

緑苑の利用者の皆さんに理事長との思い出を語っていただきました。
(聞き手 上野広美)

「理事長は花が大好きで、どんな小さな花でもとても大切に育てられていらっしやいました。なかでも小さなスミレの花がお好きでした。武蔵台から緑苑に移ってきた時に分けて持ってきたので、苑の庭には今でもスミレが咲いています。なぜかしら、紫陽花はあまり好きではないとおっしゃっていました。」

「理事長が旅行に行かれた時に、お土産にと私にお財布と櫛を買ってきてくださいました。大事に使っています。今となつては大切な形見となりました。」

「理事長とは苑の行事の1泊旅行に何回もいっしょに行きました。いつも先頭を歩いて下さり、私たちは安心してついて行くことができました。カラオケでは「さぎんかの宿」が十八番でした。」

「理事長は水を1滴たりとも無駄にしませんでした。よく「背負い水」の話をして下さいました。人はそれぞれ決められた分量の水を背負っているの、長生きしたいのなら自分の水を大切に使うようにという意味があるのだそうです。理事長ご自身も庭の雨水を溜め置いて、拭き掃除や草花への水遣りにと大切に使っていました。」

理事長との思い出

平賀登美子

理事長と私の出会いは25年前でした。その頃は主人の病氣と3人の子育てと大変な時期でしたが、理事長との採用面接を受けました。理事長は当時もう70歳を越えていましたが、何とはっきりとした元気な方なだろうと驚きました。そして、厨房の一員として働くことになりました。

理事長から厳しく言われたことは『利用者には3度の食事の楽しさを常に味わっていたこと』『利用者の異なった食生活を無理に変えるのではなく、素材を活かした心のこもった食事を提供すること』でした。理事長ご自身はこのこと、白いご飯に生卵と味噌汁、塩鮭、辛子めんたいこ、そして漬物が大好物で、まぜご飯とそばは食べないという徹底ぶりでした。

日常生活のなかでは電気、水の節約には特に厳しく、とりわけ夏の水不足の時には水を無駄にしないために、食器の下洗いは新聞紙でするように指示されていました。また食中毒の危険性についても口を酸っぱくして言われました。そんな理事長も厨房の職員には何かと声をかけて下さり、私たちを励ましてくださいました。

「千代田区のホームができる百歳までがんばるから、あんたも調理場を頼むよ」と話された理事長の声を私は一生忘れることができません。理事長の志を受け継いでこれからも仕事を続けて行きたいと思

(泉苑 調理主任)

理事長との思い出

近藤 政晴

理事長と私との最初の出会いは、白鳥寮への就職面接の時でした。大学4年の9月に面接を受け、内定はもらっていました。最後に理事長と面接してから本採用の決定をする事になったのです。理事長といえば法人の「最高責任者」、自分の中では勝手なイメージを抱いていました。ところが理事長の第一印象は「小柄なお婆ちゃん」(失礼!)で、私の抱いていたイメージとのギャップがずいぶんあったように思います。福祉のことについていろいろ質問されるのではないかと思ひ、自分なりに準備をして行きました。面接で質問されたことといえば、「野球」と「両親」のことが主な内容だったと記憶しています。後に分かったことですが、理事長は福生市熊川の生まれで、理事長の御母堂のご実家がある野市代継にあり、私の父方の実家が熊川で母方の実家が代継ということで、偶然にも理事長と同じ境遇だったからだと思います。

白鳥寮に就職してからは、理事長は仕事のことに関しては非常に厳しく、よく「叱られた」という印象が残っています。しかし、当時白鳥寮には男性職員が私1人だけだったこともあり、昼食や宿直時の夕食等をとても気にかけていただきました。宿直の時には、理事長に雑炊を作ってもらったこともありました。また、食事の心配をしなくていいようにと、老人ホームの職員給食を食べられるようにして下さったり、ちよつとした声掛けなど、非常に心温まる配慮をしていただきました。

理事長が亡くなり寂しいと感じている人は、私の他にもたくさんおられると思いますが、これからの自分にできることは、理事長のように「自分と仕事」に厳しく、「人としての思いやり」を持ち続け、理事長の「信念」を大切にしていこうと思ひます。最後に中城イマ理事長のご冥福を心よりお祈りいたします。(中野区さつき寮 施設長)



昭和50年代の朝礼の風景



緑町に移転した頃、緑苑の利用者と

新人さんいらっしゃーい!!

泉苑には、この春より、高橋茂治(ホー...)



入職して、3ヶ月が過ぎようとしてい... ます。はじめは何をするにもわからなく...

入社してからあつという間に3ヶ月が経ちました。仕事を始めた頃は想像以上の厨房の忙しさに驚きました。様々な食事形態、山のような切り物や洗い物で、戸惑いと不安で一杯でした。しかし、覚えも動きも悪い私に先輩方は根気よく丁寧に仕事を教えて下さり、アドバイスをくれました。上手く仕事をできずくじけそうなのに、「大丈夫!」

(渡辺 綾)

(室 好美)

あさひ苑は地球の救世主?!

あさひ苑は、今年7名の職員が入りました。2月から研修を行い5ヶ月が経ちました。そのピカピカの新人職員にあさひ苑のステキなところを紹介してもらいます。



「あいさつ」が、とても心地良いところです。朝の一言で一日の始まりがとても幸せに感じられます。(サービスマ調整室 西郷加代子)

(ホームヘルプ 比嘉克代)

あさひ苑はとてもきれいで広く、光もたくさん入る明るい施設です。利用者の方も過ごしやすい所だと思います。(3階ホーム 松本芽久未)

あさひ苑はよく笑う。みんな笑う。利用者も職員も。「笑顔は地球を救う」なんて言った人がいる。... (3階ホーム 藤崎達也)

我があさひ苑には立派な日本庭園があり、利用者の方々にも大人気です。池には今年ホタルが飛び予定です。(2階ホーム 柳 真由美)

「ピカピカの友情」

「今日ね、ジョンがいたよ!」ラブちゃん赤ちゃんがいるんだよ! 「パロンに、なめられた!」学校から帰ってきて、真剣なまなざしで夢中で話し始めるのは3年生のAちゃんです。Aちゃんは動物が大好きです。学校で飼育しているうさぎとも大の仲良し。でも、もっとも仲良しなのがジョン、ラフ、パロン、チョコ! いずれも近所のおうちや、となりの泉苑のかわいい犬たちです。学校から帰ってくるなり、「今日ジョンいたよ。見に行こうよ!」学校の展示会でも「ジョンだよ!」紙粘土でできた芸術的なジョンをがんばって制作し、見せてくれました。そんなある日、AちゃんとPちゃんと私でいっしょに学校から帰ってきた時のことです。「あつパロンだ!」Pちゃんが言いました。パロンはちやうど通学路の途中にある家の、大きなハスキー犬です。体がとても大きく、りりしい顔つきなので、大人でもちやうど近づくのをためらってしまいます。道に面してパロンの大小屋があるので、誰が通ってもしらんぷりして寝ているパロン。でも今日はそのパロンが、私たちを見てしほをぶって待っているのです! 「Aちゃんが来たからだよ。パロンはAちゃんが好きなんだよ!」Pちゃん。Aちゃんはやさしくパロンの頭をなでてあげました。はじめて見るパロンのうれしそうなお表情... Aちゃんとパロンとの言葉を必要としないコミュニケーション。とてもあったかい空気が伝わってきました。パロンとAちゃんのピカピカの友情! これからもずっと仲よくね。(樋口 志津子)

ピカピカの😊☺☹️!

4月に入った新人職員もはや4ヶ月、少しは仕事にも慣れたころでしょうか。でも初心を忘れず、ピカピカの気持ちを大切にしたいものです。施設のなかにも光輝くことがたくさんあります。今回は各施設の「ピカピカ」を紹介いたします。

「ちやもっせ」

私がさつき祭の子ども達と出逢って2ヶ月が過ぎました。普段は主に7名の学童と接していますが、変わりやすい気候のせいもあり、出会った頃と比べて妙に落ちつきないように思います。



「今日の掃除ごっこ!」とさすなな学童の子ども達が毎日口にする言葉。さすななでは毎日夕方のチャイムが鳴ると、アライグマ、カービー、というグループに別れて一日交代の掃除が始まります。一日遊んで散らかしたみんなの学童室の片付け... 「嫌だなぁ、めんどくさい!」と言っていた子や外で遊びに夢中になっていた子も声がかればみんなたちまち学童室に集まってそれぞれにほうきや掃除機を使ってテキパキ、ちよこまかと取りかかります。4月から新しく1年生になった子だつて上級生の後姿を見て真似したり掃除機の使い方を教えてもらったり、とこちらも一生懸命なのです。「あー靴下入っちゃった!」と掃除機で「ミミ」と一緒に脱いであった靴下を吸ってしまった! 「うわぁ、水が!」と水道の蛇口を思いっきりひねって水びたしにして更に仕事を増やしてしまったりと毎日がハプニング。さすなな手つきだけだか、さすななの子どもたちは小さな体を一杯動かして学童室をピカピカにします。「キレイになあれ!」ピカピカになあれ! 「と念力で学童室をキレイにさせてしまおう小々な魔法使いのようです。今日も網代ホームさすななでは小さな魔法使い達がパタパタと元気な心の魔法を使って掃除をしています。(高梨 由香)

「ピカピカになあれ!」今日の掃除ごっこ!とさすなな学童の子ども達が毎日口にする言葉。さすななでは毎日夕方のチャイムが鳴ると、アライグマ、カービー、というグループに別れて一日交代の掃除が始まります。一日遊んで散らかしたみんなの学童室の片付け... 「嫌だなぁ、めんどくさい!」と言っていた子や外で遊びに夢中になっていた子も声がかればみんなたちまち学童室に集まってそれぞれにほうきや掃除機を使ってテキパキ、ちよこまかと取りかかります。4月から新しく1年生になった子だつて上級生の後姿を見て真似したり掃除機の使い方を教えてもらったり、とこちらも一生懸命なのです。「あー靴下入っちゃった!」と掃除機で「ミミ」と一緒に脱いであった靴下を吸ってしまった! 「うわぁ、水が!」と水道の蛇口を思いっきりひねって水びたしにして更に仕事を増やしてしまったりと毎日がハプニング。さすなな手つきだけだか、さすななの子どもたちは小さな体を一杯動かして学童室をピカピカにします。「キレイになあれ!」ピカピカになあれ! 「と念力で学童室をキレイにさせてしまおう小々な魔法使いのようです。今日も網代ホームさすななでは小さな魔法使い達がパタパタと元気な心の魔法を使って掃除をしています。(高梨 由香)

法人の光る星となる!

こんにちは! 今年の3月に介護福祉士養成学校を卒業して、社会人の仲間入りを果たすことができました。学生生活が長かったせいですが、また、小心者の性格が後押しをして、入社式前日は興奮してしまい1時間おきに目が覚めていたのを今でも覚えてます。(事務員 堀内 賢治)



そのような中で、最近学童での取り組みの一つとして、寮裏の花壇でトマト作りを始めました。「こんな学校で何度も作ったことあるよ!」と言っるのは6年生のD君。実際に土作りも苗を植えるのもリーダーとなってくれました。水やりは学校から帰ってきてからできる人でやります。そのかいあって、現在はまだまだ小さいですが実がなりました。しかし、大変なのはこれから! トマトは梅雨が大の苦手なのです。ですからその前にネットをはったり、わき芽を取ったり、まだまだ子ども達の力が必要になります。また、学童では7月におこなわれるドッチボール大会の練習も始めました。さつき祭の学童は低学年が多いので力の程はどこまで及ぶのか分かりませんが、パス回しやキャッチの練習など、繰り返しやるうちにうまくなっていくのが目に見えます。そして何よりも、上達を自覚した子どもの満足気な顔が最高です。さつき祭ではこのような取り組みがたくさんあります。こうした取り組みを通して子ども達の感情が育てば良いなと感じています。カラッと晴れた夏にはドッチボール大会でピカピカの笑顔で笑えるように、そしてピカピカのトマトが食べられるように、子ども達と共に日々を頑張っていこうと思えます。(田辺久美子)

「ピカピカになあれ!」今日の掃除ごっこ!とさすなな学童の子ども達が毎日口にする言葉。さすななでは毎日夕方のチャイムが鳴ると、アライグマ、カービー、というグループに別れて一日交代の掃除が始まります。一日遊んで散らかしたみんなの学童室の片付け... 「嫌だなぁ、めんどくさい!」と言っていた子や外で遊びに夢中になっていた子も声がかればみんなたちまち学童室に集まってそれぞれにほうきや掃除機を使ってテキパキ、ちよこまかと取りかかります。4月から新しく1年生になった子だつて上級生の後姿を見て真似したり掃除機の使い方を教えてもらったり、とこちらも一生懸命なのです。「あー靴下入っちゃった!」と掃除機で「ミミ」と一緒に脱いであった靴下を吸ってしまった! 「うわぁ、水が!」と水道の蛇口を思いっきりひねって水びたしにして更に仕事を増やしてしまったりと毎日がハプニング。さすなな手つきだけだか、さすななの子どもたちは小さな体を一杯動かして学童室をピカピカにします。「キレイになあれ!」ピカピカになあれ! 「と念力で学童室をキレイにさせてしまおう小々な魔法使いのようです。今日も網代ホームさすななでは小さな魔法使い達がパタパタと元気な心の魔法を使って掃除をしています。(高梨 由香)



ボランティア活動紹介

あさひ苑

●あさひ苑で踊る大搜索線

あさひ苑のちよつと変わったボランティアメンバーに警察学校の学生さんがいます。警察と聞くと「こわーい」と「頼もしい」と反応は人それぞれです。

教官の方から声がかかった時は私達も一度に40人の方をどうお迎えし、何をしてもらおうか迷いました。月1回の活動が始まって半年になりましたが、それぞれのチームに4、5名ずつお手伝いしてもらったり、

演芸班で各フロアーをまわって

もらっています。ベッドの拭き掃除をしている方にAさんは「まあまあありがとう。優しいお巡りさんになって下さいね。年寄りには声をかけられると嬉しいものですよ。」とお話しされていました。

演芸班もなかなかのもので手品に始まり専門の(?)敬礼披露。ピカイチは合唱部によるアカペラコーラス。これは何度でもアンコールが飛んでいました。これからもよろしく!

(市川美智子)



オープンルーム

●オープンルーム

しらとりでは、子育て家庭を支援するための交流事業としてオープンルーム(以下O・R)を月2回、火曜日に行っています。毎回100名の親子が遊びに来てくれ、手遊びや歌、ゲームに工作と盛りだくさんです。職員だけでなくボランティアや民生委員のたくさんのお力をいただいで成り立っています。ピアノを弾いてくださるKさんは以前はピアノの先生をされていただけあって、急な選曲にも「まかせなさい!」と軽やかに

弾いてしまう腕の持ち主です。私がアドリブで手遊びを始めると、ピアノでメロディーを合わせてくれ、歌の世界がぐーんと広がり全場がひとつになった!と感じられます。頑張るぞ!と意欲が湧いてくる瞬間でもあります。

また、自主グループでミニO・RをもつMさんからはたくさん遊びのアイデアをもらいます。最近参加くださったAさんは子育て真っ最中パワーで、O・Rにやってくるお母さんの切実な悩みなどにもうなづき、優しく応対してくれます。これからもチームワークを大切に、明るく楽しい笑顔いっぱいO・Rであり続けるよう、頑張ります!(広田貴子)

ボランティアの御協力ありがとうございます(敬称略)

青木成江、青山幸子、赤田美恵子、赤林好子、浅井吉子、飯塚喜彦、池田靖邦、石井宏、石坂勝代、石川滋子、石森節子、市村正美、伊東富美子、伊藤浜子、井上佐代子、井上宏子、井踏世津子、岩間望、魚住仁恵、上野玲子、上原智美、鶴澤シヅ、江口亜津子、江田広子、遠藤伊代、遠藤みつよ、遠藤陽子、大倉弘子、大田トク、大竹ちとせ、小川健治、小川和子、萩野和子、小倉道子、小澤未子、尾崎ヨシ子、恩田猛、角田和歌子、笠間豊子、梶田慶子、鹿島千恵子、家族会名札つけ、カトトサロニアベ、加藤静、加藤博子、加藤光子、上沢美和子、川崎綾子、川崎和代、川崎恵、河野トシヨ、

城所栄子、木下実、木下えり子、木村幸子、木本敦子、金田一温子、北邑ヒデ子、草野美鈴、久保田摩耶子、熊倉洋子、車椅子ボランティア、黒岩富美子、黒澤貞子、警察大学校、弦間まき、小出晨一、小出由美子、小島瑠美子、小島ユミ子、小島百合子、小須田まつ代、小林希代子、小林貞子、小松志野、紺野和子、今野幸子、齊藤孝子、坂下貴美子、坂本文子、迫祥夫、佐藤秋子、佐藤なかり、佐野田鶴子、柴田美紀、島津弘子、清水文枝、下江美鈴、進藤サエ子、進藤輝子、菅原芳子、杉山シズ、鈴木昌子、鈴木千代子、鈴木嘉子、蘭部あさ、高澤和子、高瀬由利枝、高田道敏、高橋ヨウ、高野晴美、

鷹野栄子、高嵩米子、竹の会、竹松ふく、竹内カツ子、竹内範子、竹内由美子、田口稔子、辰本ケイ子、田中かね子、田中久美子、田中勉、田中宏枝、田辺利美、田村冬、丹野由紀子、千葉よし、辻新浩、土屋和子、東郷美紀子、徳永桃子、中下秀子、中島永子、中島トシエ、永野信子、中村和子、中村信子、中村知美、中村とく子、中村フサ子、中村美佐江、奈須静江、西木操、西久保長子、西宮千恵子、野口ふみえ、能登谷さくら、萩原八枝、橋本巖、長谷川宣子、働く婦人の会、花沢浩子、原菊江、原田良子、羽山直子、土方梢、ひのきしんの会、平泉順子、平澤みどり、平田敦子、

平山房子、福島英子、福原正、二家貞子、古戸育子、法師人富子、細矢真利子、牧内ヤス子、牧野新子、松川香津子、松沢通子、松田恵子、松野アイ、松村京子、丸山公恵、水谷静江、水野知恵、御手洗昭二、三溝久枝、三輪孝子、宮崎美知子、宮澤由紀枝、村尾良子、室惇子、毛利裕子、望月友子、森亮子、元田良一、森口絹代、森嶋智子、盛田光代、八木かつ子、矢島道子、山内邦子、山上涼子、山田ケイ子、山田繁子、湯浅篤、弓削田恵美子、横田公子、吉田睦子、理容ボラ、脇山令子、渡辺キク

(平成14年3月〜平成14年5月)

編集後記

しんあい47号を読んで下さった方からFAXを頂きました。「年を重ねて生き続けるといことは自分一人だけの問題ではないと、シヨックを受けた」と書いてありました。季刊しんあいを読んでちよつと立ち止まる、そんな記事を書けたらいいなと思います。

今号は原稿がとて早く集まりました。

理事長への思いは尽きることがありません。その「あかし」です。(上野)

御寄贈

ありがとうございます

ご協力ありがとうございます(敬称略)

石原秀子、内野滋雄、小田島直子、乙葉香代子、岡田敏子、加藤久作、金井恒夫、神崎順江、(株)アップルファーム、(株)福祉会計サービセンター、北山ヨウコ、キリンビール(株)、鯉淵敏子、佐藤武士、佐藤富士子、(財)愛恵福祉支援財団、社団法人あゆみの箱、鈴木益子、園田竹子、大和證券グループ本社社会貢献室、田中元子、東京ジャーナリストクラブ、府中第九小学校六年生、松村寛、松本房子、宮内眞木子、明治神宮崇敬会